

北陸新幹線敦賀開業に向けた 敦賀市行動計画

【骨子案】

敦賀市

目 次

1. 行動計画の概要	・・・ 1
------------	-------

2. 新幹線開業がもたらす環境の変化	・・・ 3
--------------------	-------

3. 行動計画の基本方針	・・・ 5
--------------	-------

4. 取組方策	・・・ 8
---------	-------

5. 行動計画の推進	・・・ 21
------------	--------

1. 行動計画の概要

(1) 計画策定の目的

「北陸新幹線敦賀開業に向けた敦賀市行動計画」(以下、本計画)は、2023 年春に予定されている北陸新幹線敦賀開業に向けて行政・民間企業・関係団体等が一丸となって受け皿づくりに取り組み、開業効果を最大限に引き出すことができるよう、「いつ・誰が・何を・どのようにすべきか」といった具体的な行動方針を定めることを目的としています。

(2) 行動計画の位置づけ

北陸新幹線の敦賀開業は 2012 年に工事实施計画が決定されました。当初は、2025 年度の開業とされていましたが、現在では 2023 年春の開業が予定されています。開業年が 3 年前倒しとなったことにより、開業効果を早く得られるようになりました。一方で、受け皿づくり等、開業準備の時間的猶予は少なくなっています。

本市では、すでに「敦賀市再興プラン(第 6 次敦賀市総合計画後期基本計画)」(以下、「敦賀市再興プラン」)や「敦賀市観光振興計画」等において、北陸新幹線敦賀開業を見据えた大局的な政策・施策の方向性が定められています。来訪者を迎え入れる準備が急務となっている本市では、定められた方向性に基づき、施策を実現させていくための具体的な行動方針が求められています。

このことから本計画は、各分野に横断する施策を「北陸新幹線敦賀開業」の視点で取りまとめ、一体的に推進するための具体的な取組方針を定めたものとなります。

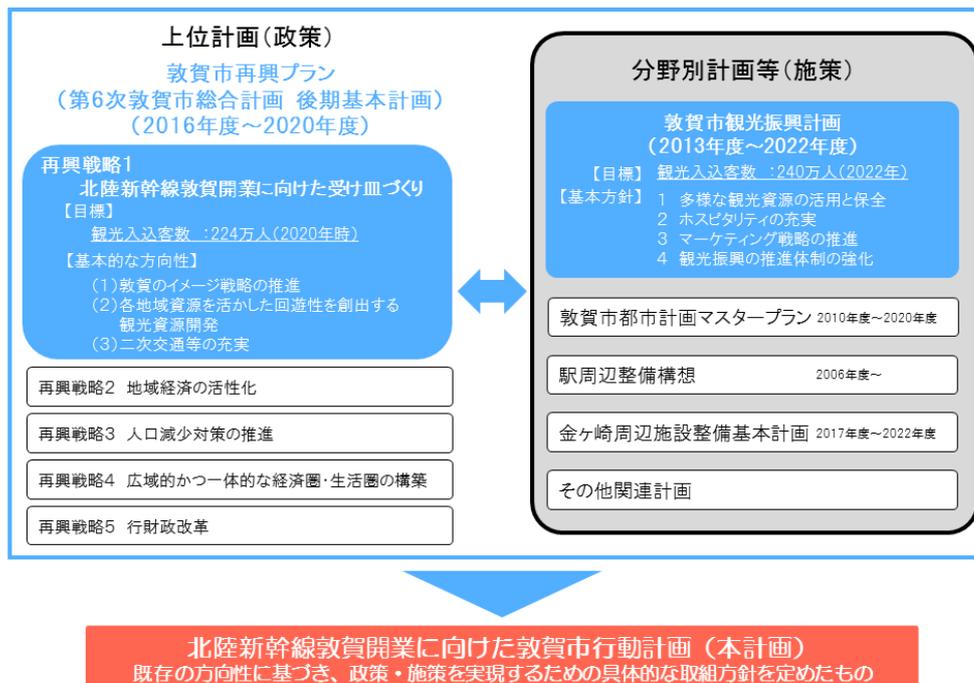


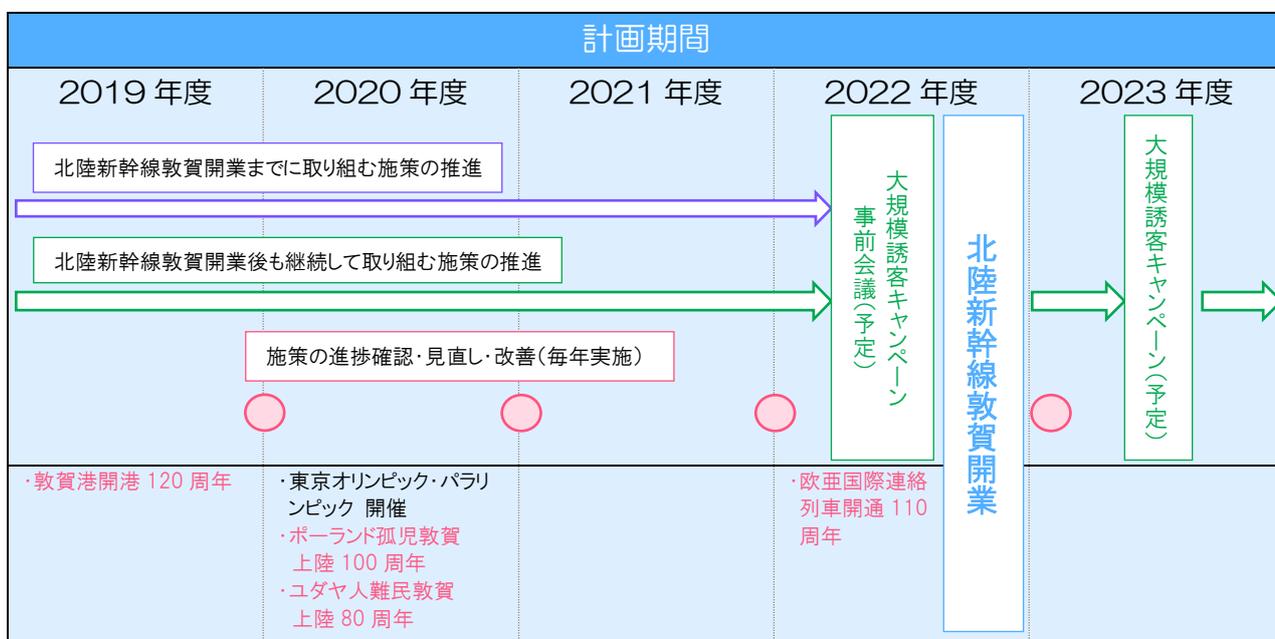
図 北陸新幹線敦賀開業に向けた敦賀市行動計画の位置付け

(3) 行動計画のスケジュール

新幹線の開業に向けては、開業後の継続した取組も重要であることから、本計画については、開業までに取り組む施策と、開業後も継続して取り組む施策の両方を位置づけることとし、計画期間を2019年度から2023年度の5年間とします。

また開業までに、本市では「敦賀港開港 120 周年」を始めとする本市の歴史にとって重要な記念の年を多く迎えます。これらの機会を開業までの節目として捉え、おもてなし意識の醸成や地域資源の磨き上げなど、来訪者を受け入れる準備を着実に推進する必要があります。

取組施策は、社会情勢の変化等を踏まえ、毎年度、取組状況の確認を行い、必要に応じて見直し、改善を行います。



2. 新幹線開業がもたらす環境の変化

変化① 所要時間の短縮

東京をはじめ、大宮、高崎などの関東地方や長野、新潟など信越地方から、乗り換えなしで敦賀市に訪れるようになります。特に下表に示すとおり、北陸および信越の主要駅から敦賀駅までの所要時間が大幅に短縮されるため、ビジネスでの出張や日帰り小旅行等で来訪しやすくなります。

また2017年3月に、小浜・京都・京田辺を経由し新大阪に向かう若狭ルート(小浜・京都ルート)が決定されました。小浜市付近に設置される新駅と京都駅の間は19分で結ばれ、関西方面からの所要時間がさらに短縮されるだけでなく、新幹線を通して北海道や九州地方ともつながることになります。

	開業前		開業後
金沢※1	74分	30分短縮	44分
富山※1	102分	38分短縮	64分
長野※2	149分	38分短縮	111分

出典: ※1 福井県「福井県高速交通開通アクション・プログラム」
 ※2 福井県「みんなの力で早期開業 北陸新幹線」



関東・東海・関西エリアの将来路線図

変化② 交通の拠点化による交流人口の増加

北陸新幹線の当面の終着駅・始発駅となる敦賀駅は、首都圏から京阪神・北近畿へ、また京阪神方面から信越・北関東へ向かう人々が福井方面や小浜方面へ乗り換えを行う「交通の要衝」としての機能を持つことになります。また、敦賀駅東側の駅前広場には、広域周遊バスのバスターミナル、北陸自動車道へのアクセス道路が整備され、各都市圏や近隣市町への自家用車やバスによるアクセス性が向上します。

京阪神方面、東海方面、信越・北関東方面のどの方面にもアクセスしやすくなることから、効率的な人、物の流れを目的とした、嶺南地域への企業進出が期待できます。また、近年太平洋側で懸念されている南海トラフ地震等の巨大災害に対するリスク軽減を目的とした進出も想定されます。

さらに、本市は三方が山に囲まれた自然豊かな環境であり、また北部には天然の良港である敦賀港があります。都会を離れ豊かな自然環境の中で暮らしたいと考える子育て世代や、ゆとりのあるシニア層に向けて、各都市圏からの利便性の高さをPRすることで、移住・定住者増加の可能性が広がります。



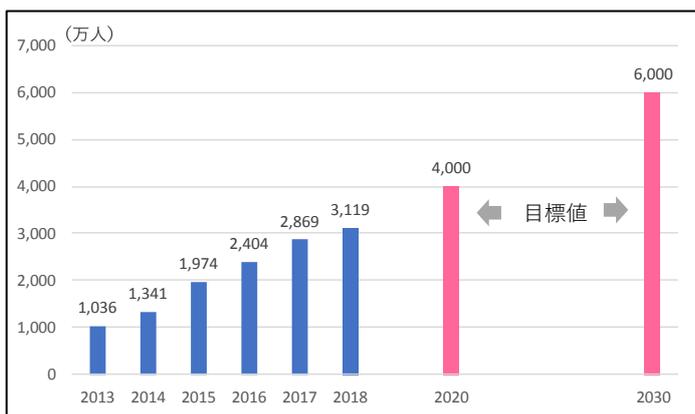
北陸新幹線敦賀駅 駅舎イメージ(東側)

変化③ 外国人旅行者の増加

日本国内を訪れる外国人旅行者は年々増加傾向にあり、2018年に3,000万人を突破しました。観光庁では2020年には4,000万人、2030年には6,000万人の来訪を目標値としており、我が国全体で外国人旅行者の受け入れ体制を整える方針としています。そのような中で2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催、2025年に大阪万博の開催など、多くの外国人旅行者が日本を訪れる機会が続きます。

北陸新幹線金沢開業後、北陸方面を訪れる外国人旅行者は増加しています。外国人宿泊者数を開業前後で比較すると、富山県で2倍、石川県で2.2倍に増加しています。引き続き、外国人旅行者の増加が見込まれるため、北陸新幹線の終着駅である敦賀市を訪れる外国人旅行者も増加すると考えられます。

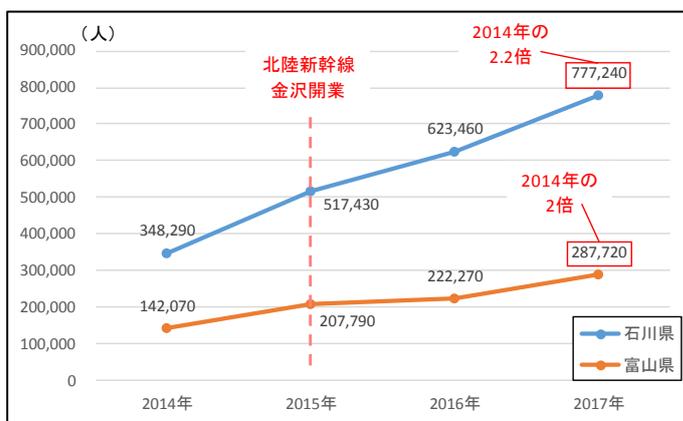
また一方で敦賀市においても、2019年に敦賀港開港120周年、2020年にポーランド孤児上陸100周年、2020年(～2021年)にユダヤ人難民上陸80周年を迎えるなど、北陸新幹線敦賀開業までに国際的に重要な記念の年を迎えることに加え、杉原千畝ルートや北前船など他地域との連携、クルーズ客船の寄港など、外国人旅行者の受け入れ機会が増加すると考えられます。



出典：日本政府観光局、「国籍別/目的別訪日外客数（確定値）」(2013-2018)
観光庁、「明日の日本を支える観光ビジョン」、2016 (2020、2030 目標値)
日本を訪れる外国人旅行者数の推移

2019年	日本・ポーランド国交樹立100周年 敦賀港開港120周年
2020年	東京オリンピック・パラリンピック ポーランド孤児敦賀上陸100周年 ユダヤ人難民敦賀上陸80周年
2021年	
2022年	
2023年	北陸新幹線敦賀開業 欧亜国際連絡列車開通110周年
2024年	
2025年	大阪万博

敦賀市および日本国内の主な国際的事業
(敦賀市に関連するイベントは赤色)



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」、2014-2017

石川県・富山県の外国人宿泊者数

3. 行動計画の基本方針

(1) 敦賀市の課題

上位計画(政策)である「敦賀市再興プラン」および分野別計画(施策)のうち最も関連性が深い「敦賀市観光振興計画」の定める方向性と、2017年度に実施した「首都圏生活者のライフスタイル動向調査」のアンケート調査結果および「首都圏メディア関係者招へいツアー」の意見交換会と事後アンケートの結果をもとに、新幹線開業に向けた敦賀市の課題を3つ抽出しました。

上位計画および分野別計画

- ◆第6次敦賀市総合計画後期基本計画
『敦賀市再興プラン』(2016年～2020年)
戦略1:北陸新幹線敦賀開業に向けた受け皿づくり
＜基本的な方向性＞
[1]敦賀のイメージ戦略の推進
[2]各地域資源を活かした回遊性を創出する観光資源開発
[3]二次交通等の充実
- ◆敦賀市観光振興計画(2013年～2022年)
＜基本方針＞
①多様な観光資源の活用と保全
②ホスピタリティの充実
③マーケティング戦略の推進
④観光振興の推進体制の強化

調査資料

- ◆首都圏生活者のライフスタイル動向調査(2017年度実施)
【アンケート結果(一部抜粋)】
 - ・敦賀市を「知っている」人は全体で64.8%。女性の認知度は54.0%と、女性にあまり知られていない。
 - ・敦賀のイメージをつかめていない人が約4割。イメージが明確な人の最も明確なイメージは「原発」であり、「氣比の松原」や「氣比神宮」等のイメージが浸透していない。
- ◆首都圏メディア関係者招へいツアー(2017年度実施)
【意見の一部抜粋】
 - ・ストーリー性が重要。杉原千畝、人道の港などはストーリー性が感じられる。
 - ・敦賀でしか体験できないもの(こと)があればと思う。
 - ・誰に向けて何を発信していくが定まっていない。
 - ・最終的には人。人は人を通じてその土地を好きになる。

上位計画、分野別計画、各種調査資料から
課題を抽出

敦賀市の課題

<1>敦賀のイメージ構築と認知度向上

「敦賀のイメージ」の定着を確実に図るために、「海・港」「海の幸」「鉄道」など軸となる観光資源を用いて、魅力的なストーリーと付随する敦賀独自の体験を構築することが重要です。また「敦賀のイメージ」を伝えたいターゲットを選定するなど戦略的にPRを行い、「敦賀」の認知度の向上および来訪意識を高める必要があります。

<2>交通の要衝としての機能強化

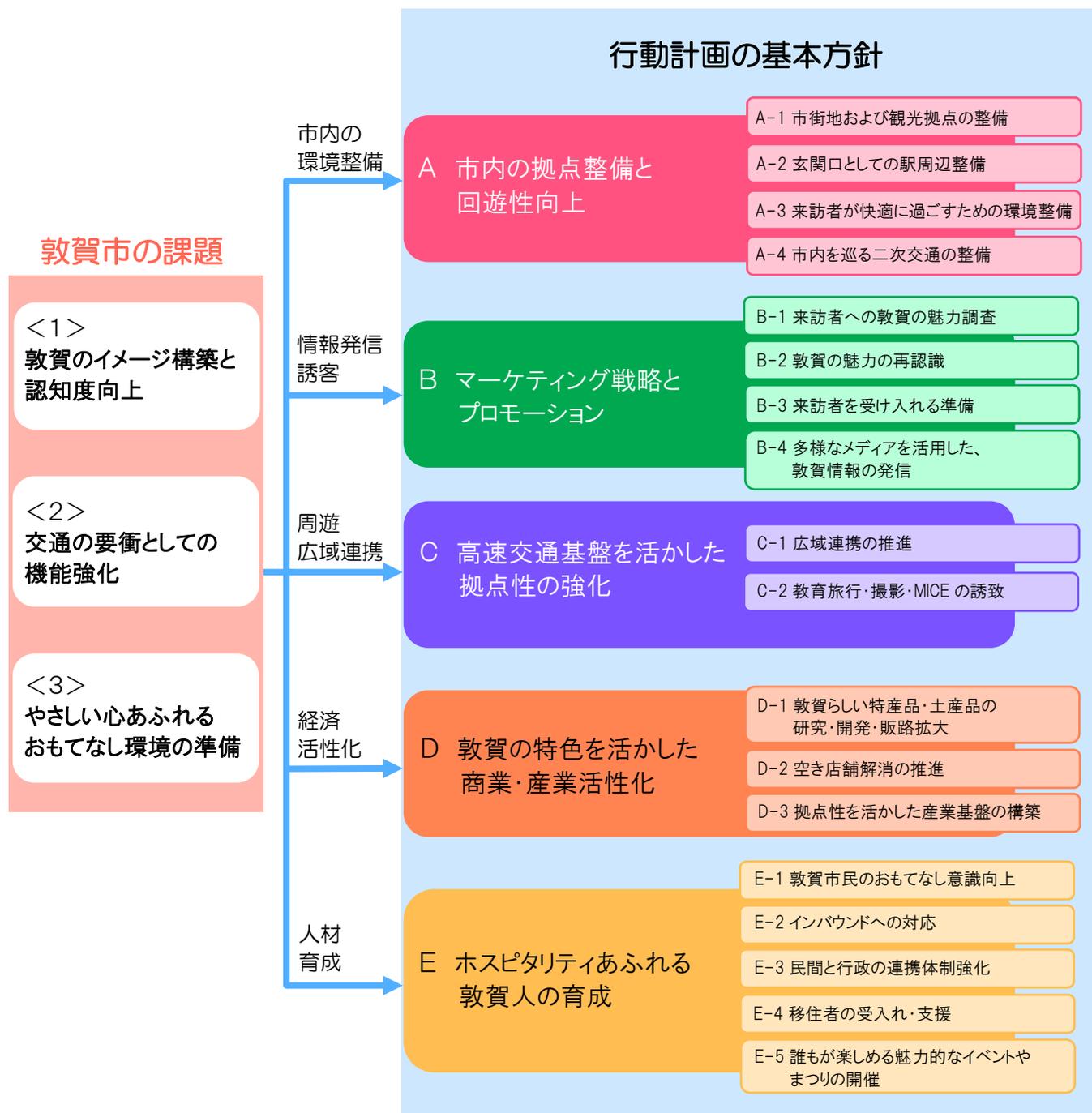
北陸新幹線の敦賀開業により、北陸方面、大阪方面、米原方面、嶺南方面との接続機能が強化されます。敦賀市の強みである行きやすく、帰りやすい「交通の要衝」としての拠点性を最大限に活かし、多様な人が行き交うまちを目指すことが大切です。

<3>やさしい心あられるおもてなし環境の整備

敦賀が魅力的な場所であることを来訪者に認識してもらうためには、来訪者を心から受け入れる環境づくりが重要です。そのため、ユダヤ人難民やポーランド孤児を受け入れた「やさしい日本人がいたまち」の市民性を土台とし、観光スポットの充実や周遊観光の提案など、敦賀滞在時の多様な楽しみ方を提供することに加え、おもてなし意識を高め、やさしい心で来訪者を受け入れられる敦賀市民の育成が求められます。

(2) 本計画の基本方針

(1)の3つの課題をもとに、5つの基本方針を定めます。それぞれの方針に沿った施策を並行して推進することで、課題解決を図ります。来訪者受入れに向けて、市内の拠点整備や人材育成を推進することに加え、敦賀市の魅力を広く知ってもらえるよう情報発信を行います。また、「交通の要衝」としての強みを活かし、嶺南地域の拠点として商業・産業の活性化や広域連携の強化を進めていきます。



(3) 本計画の目標値

本計画の推進にあたり、開業後の 2023 年度における取組の効果を検証するため、以下の 3 つを目標として設定します。

目標①と②については、北陸新幹線敦賀開業による本市への来訪者数を把握するための指標として選定します。また、目標③については、新幹線開業による中心市街地の賑わいや回遊性等の取組効果を把握するための指標として選定します。

①敦賀駅乗降客数は、年間 330 万人を見込みます。

北陸新幹線敦賀開業に伴う、敦賀駅の利用者数を予測。

現状値 (参考)	261 万 9 千人 (2017 年度)	→	目標値	330 万人 (2023 年度)
-------------	----------------------	---	-----	------------------

現状値出典: 福井県統計年鑑

目標値算出方法: 関連計画である「都市再生整備計画」(現在国へ申請中)における平成 35 年度の乗車人員数の目標値、4,510 人/日をもとに、年間の乗降客数を設定した(乗車人員数と降車人員数は同数とする)。

②観光入込客数は、年間 253 万人を目指します。

北陸新幹線敦賀開業後の、敦賀市内観光施設への入込客数を予測。

現状値 (参考)	222 万 8 千人 (2017 年)	→	目標値	253 万人 (2023 年)
-------------	---------------------	---	-----	-----------------

現状値出典: 福井県観光客入込客数(推計)

目標値算出方法: 北陸財務局の調査などを参考に、これまでの国内新幹線延伸時の各県ごとの開業年とその前年の入込数の比較を行い、平均して 5.5%増加していたことから増加率を 5.5%とし、観光振興計画の 2022 年目標値 240 万人から 5.5%増と設定した。

③中心市街地の歩行者・自転車通行量(休日)は、1 日あたり 4,550 人を目指します。

来訪者増加による中心市街地のにぎわい創出に伴う、休日の中心市街地(5 地点)の歩行者・自転車通行量を予測。

現状値 (参考)	4,129 人 (2017 年度)	→	目標値	4,550 人 (2023 年度)
-------------	-------------------	---	-----	-------------------

現状値出典: 敦賀市歩行者・自転車通行量調査

目標値算出方法: 2015 年度～2017 年度の歩行者・自転車通行量の増加率が 4%であることと、新幹線開業に伴う乗降客数の増加分(25%)のうち、徒歩または自転車により移動する人の割合を 6%(増加分の 1/4)とし、合計 10%を 2017 年度の数値(4,129 人)からの増加率として設定した。

4. 取組方策

A 市内の拠点整備と回遊性向上

鉄道と港に関する資源の多い「敦賀港周辺エリア」、商業施設が多い「氣比神宮周辺エリア」、敦賀の玄関である「敦賀駅周辺エリア」の中心市街地や、名勝・史跡など観光拠点を中心とした整備を推進します。

また、敦賀市内を快適に周遊して楽しめるよう、バリアフリー化や二次交通が充実した環境づくりも進めます。

重点プロジェクト

A-1 市街地および観光拠点の整備

金ヶ崎周辺地区の整備

取組概要	<p>金ヶ崎周辺施設整備計画に基づき、新ムゼウムを整備するとともに、関係機関との協議を踏まえ、転車台の活用や海辺のカフェ等の民間資本の導入を図る</p>  <p>金ヶ崎周辺地区整備イメージ ▶</p>	主な実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市 ・福井県 ・民間企業 <p style="text-align: right;">など</p>
------	--	--------	--

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	人道の港敦賀ムゼウムの整備・拡充	建築工事・展示製作	開館準備・供用開始	供用		
②	民間活力導入による物販・飲食機能の整備	内容検討・ニーズ調査		設計・整備工事	供用	
③	鉄道遺産の活用	利活用方策の検討	新たな利活用の実施			
④	転車台の活用及びSL動態保存	測量・設計	整備工事		供用	

氣比神宮周辺の魅力向上

取組概要	中心市街地内で最大の観光資源である氣比神宮の魅力向上に向けた保存整備を行う。また門前町である商店街において、多目的広場の整備やテナントミックスの展開等により活性化を図る	主な実施主体	・敦賀市 ・港都つが
------	--	--------	---------------

◆取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	集落活性化支援事業	担い手育成 テナントリーシング事業	担い手育成			
②	神楽町1丁目多目的広場整備事業	施行・供用開始	他の取組等による活用			
③	名勝けいの明神の整備	保存活用計画 策定準備委員会	保存活用計画 策定委員会	基本構想 基本計画	整備実施 計画	整備

A-2

玄関口としての駅周辺整備

敦賀駅周辺エリア整備

取組概要	<p>新幹線駅前広場(ロータリー、歩行空間、屋根など)の整備および、その周辺施設(緑化空間、散策路連絡橋など)の整備を推進する</p> <p>また、駅西地区に知育機能をはじめ、拠点性向上に資する機能を持たせた官民連携による民間施設を導入する</p>	主な実施主体	・敦賀市
------	--	--------	------



▲敦賀駅西口完成イメージ

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	駅西地区の交流拠点整備	土地活用エリアの設計	土地活用エリアの整備		事業運営	
②	新幹線駅前広場の整備	用地買収	工事			施設管理
③	新幹線駅へのアクセス性向上	物件補償 用地買収 工事	工事			
④	駅前立体駐車場の整備	工事				

A-3

来訪者が快適に過ごすための環境整備

キャッシュレス決済環境の充実化

取組概要	県外客やインバウンドの高まりにより、ニーズが増えるキャッシュレス決済について、端末導入の支援や、活用セミナーを開催し、商機の拡大と来訪者受入環境の向上を図る	主な実施主体	・敦賀市 ・商工会議所
------	--	--------	----------------

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	キャッシュレス端末導入推進	補助事業実施・延長 (補助対象拡充)	補助事業実施			
②	電子マネー・カード決済の活用セミナーの開催	セミナー、体験コーナーを通じた支援の実施				

A-4

市内を巡る二次交通の整備

ぐるっと敦賀周遊バスの運行

取組概要	JR 敦賀駅を起点として、主要観光スポットや商業施設を巡る「ぐるっと敦賀周遊バス」を運行し、来訪者の回遊性の向上を図る	主な実施主体	・敦賀市 ・民間企業
------	---	--------	---------------

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	ぐるっと敦賀周遊バスの運行	運行実施	運行実施、利便性向上策の検討		運行実施 向上策の実施	運行実施

レンタサイクル拠点の整備

取組概要	JR 敦賀駅や氣比神宮、金ヶ崎緑地など、市内9箇所にICカード等を活用して無人で貸出、返却が可能なレンタサイクル拠点を整備し来訪者の回遊性の向上を図る	主な実施主体	・敦賀市 ・民間企業
------	---	--------	---------------

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	レンタサイクル拠点の整備	整備工事	運営実施	運営実施 追加検討	運営実施 追加整備	運営実施

B マーケティング戦略とプロモーション

敦賀駅が北陸新幹線の当面の始発駅・終着駅となることで、多くの人々が「敦賀」の名称を目にすることになり、敦賀を知ってもらう最大の好機となります。そのため、敦賀市民の視点、来訪者の視点から敦賀の魅力を分析しマーケティング戦略を立て、敦賀を訪れてもらうためのプロモーション活動を行います。

重点プロジェクト

B-1 来訪者への敦賀の魅力調査

プロモーションに向けたニーズ調査

取組概要	多様化する観光客のニーズを的確に捉え、新たな地域資源の掘り起こしや観光コースの設定等に反映させるために、来訪者に向けたニーズ調査を実施し効果的なプロモーションにつなげる	主な実施主体	・敦賀市
------	--	--------	------

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	敦賀を訪れた来訪者へのアンケート等による観光客のニーズの把握	アンケート調査の実施 →	他の取組への反映	→	→	→
②	周遊バス利用者の満足度調査	満足度調査の実施 →				

B-2 敦賀の魅力の再認識

市民の意識醸成

取組概要	新幹線の開業に向けて、工事等の進捗状況や地域資源等について学び、敦賀の魅力の再認識を促し、まちづくりへの参画や新幹線開業に向けた意識を高め、おもてなしの向上を図る	主な実施主体	・敦賀市 ・観光ボランティアガイド ・教育委員会 など
------	---	--------	--------------------------------------

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	「広報つるが」への新幹線関連事業特集記事掲載	年2回掲載 新幹線工事の状況		年4回掲載 新幹線工事の状況 市民活動状況	年2回掲載 新幹線開業時の状況	年2回掲載 開業1周年の状況
②	観光ボランティアガイド派遣による講座開催	講座開催				
③	児童生徒へのふるさと学習の推進	出前授業、現地見学、PR活動、ふるさとマップ配布、マップを生かした学習				
		副読本改訂版1の使用		副読本改訂版2の使用		副読本改訂版3の使用
			副読本内容改訂2		副読本内容改訂3	
④	修学旅行での敦賀PR	事業実施				

B-3 来訪者を受け入れる準備

敦賀独自の着地型プログラムの開発・販売

取組概要	体験型観光の高まりにより、その地域ならではの観光プログラムの開発や観光商品の販売を行うことで、観光客の中心市街地への誘導を図る	主な実施主体	・敦賀市 ・観光協会
------	---	--------	---------------

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	着地型観光プログラムの開発及び敦賀オリジナルの観光商品の販売	プログラム開発	観光商品として販売			
②	遊敦塾の運営	新企画造成、ツアー等募集/実施				

B-4

多様なメディアを活用した、敦賀情報の発信

プロモーション方策の検討と実施

取組概要	開業効果の最大化を果たす上で、事前のプロモーション活動が不可欠となることから、他の取組みにおけるニーズ調査や観光コースの設定等を踏まえ、県・嶺南地域やJR等と連携したプロモーション活動を行う	主な実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市 ・観光協会 ・協働推進組織(仮称) <p style="text-align: right;">など</p>
------	---	--------	---

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	プロモーション計画の策定・実施		計画の策定	プロモーション活動の実施		
②	新幹線開業に向けたイベントの実施や情報発信の強化		企画・準備	イベントの開催	開業イベントの実施	

C 高速交通基盤を活かした拠点性の強化

北陸新幹線の当面の終着駅・始発駅となることで、交通結節点としての機能が強化されることから、その立地性を活かし、嶺南地域への教育旅行、ドラマ・映画等の撮影、MICE※などの誘致を推進します。

また、敦賀駅が嶺南地域へアクセスするための重要な拠点となることから、近隣地域との連携を図りながら、観光 PR やインバウンド向けのプロモーション活動を推進します。

※会議・研修(Meeting)、招待旅行(Incentive)、国際会議・学術会議(Conference・Convention)、展示会・イベント(Exhibition・Event)のこと

重点プロジェクト

C-1 広域連携の推進	
嶺南市町との広域連携の推進	
取組概要	<p>嶺南地域の玄関口として嶺南各市町と連携したイベントの開催や、二次交通を活用した取組を実施し、広域連携を推進する</p> <p>主な実施主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺南6市町 ・敦賀・美浜・若狭広域観光推進会議 ・福井県(嶺南振興局) <p>など</p>

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	インバウンド誘客の推進	モニターツアーや嶺南イベントを開催 → インバウンド商談会への共同出展				
②	嶺南観光アプリの運営	アプリの運営・管理				
③	嶺南地域公共交通網形成計画の策定	計画策定 →	事業実施			
④	広域観光バスの運行		バスの運行			

テーマ別広域連携の推進			
取組概要	本市の歴史的資源である鉄道遺産や北前船等のテーマに基づき、関係市町と観光コースの設定等を行うことにより広域連携を推進し、県外からの誘客を図る	主な実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会 ・杉原千畝ルート推進協議会 ・日本海縦断観光ルート推進協議会 ・敦賀市 ・その他関係自治体など

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度	
①	近代化遺産活用による観光振興推進	近代化遺産を活用した広域観光の推進				➔	
②	北前船日本遺産の観光振興推進	ゆかりのある自治体と連携、「北前船寄港地・船主集落」の構成文化財を活用した観光振興の推進					➔
③	日本海縦断観光ルートの推進	Webサイト運営、イベント実施、各地域をつないだ旅行商品の造成				➔	
④	杉原千畝ルートの推進	杉原千畝ルート協議会による共同プロモーション活動				➔	

C-2 教育旅行・撮影・MICEの誘致

教育旅行・学生合宿の誘致

取組概要	将来の観光リピーターの創出に向けて、修学旅行や合宿誘致等の教育旅行の誘致を推進するとともに、隣接市町と連携し民泊の促進による受入環境の拡充を図る	主な実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市 ・観光協会 など
------	--	--------	---

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度	
①	教育旅行・学生合宿の誘致	教育旅行・学生合宿の誘致				➔	
②	修学旅行等での民泊の促進	修学旅行等での民泊の促進				➔	

D 敦賀の特色を活かした商業・産業活性化

「敦賀ふぐ」などの海の幸、「東浦みかん」などの農産品といった敦賀ならではの特産品を活用し、敦賀を訪れたいと思えるような魅力的な商品づくりを推進します。

また、京阪神方面、東海方面、信越・北関東方面のどの方面にもアクセスが容易になるという「交通の要衝」の特性を活かし、企業誘致や地場産業の事業拡大の支援を行います。

重点プロジェクト

D-1 敦賀らしい特産品・土産品の研究・開発・販路拡大

新商品・敦賀ブランドの推進

取組概要	新幹線開業に向けた新商品の開発や、個店の特色ある名物づくりを推進するとともに、関係機関と連携した敦賀ブランドの研究開発を行う	主な実施主体	・敦賀市 ・商工会議所
------	--	--------	----------------

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	「敦賀ブランド」開発・確立調査研究事業	研究開発の推進		ブランド創出 研究開発の推進	ブランド確立 研究開発の推進	ブランド力向上や 創出の環境整備
②	特産品・土産品の開発	補助事業実施 (補助率・上限額 見直し)	補助事業実施			
③	一店逸品開発塾	セミナー・相談会等の開催、合同プレス発表会の開催				
④	東浦みかんを活用した商品開発の推進	商品開発の推進				
⑤	敦賀ドレッシングの販売展開	販売推進				

D-2

空き店舗解消の推進

まちなか創業の推進

取組概要	空き店舗の調査とまちなか創業の支援により、中心市街地の商業活性化を促進する	主な実施主体	・敦賀市 ・港都つるが
------	---------------------------------------	--------	----------------

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	空き店舗調査の実施	調査の実施 →				
②	中心市街地での創業支援	補助事業実施 (補助要件等の見直し) →	補助事業実施			

D-3

拠点性を活用した産業基盤の構築

拠点性を活用した産業基盤の構築

取組概要	産業団地への企業誘致や、企業の技術開発、研究開発等を支援し、新たな企業進出、事業拡大に伴う雇用者、定住者の増加を推進する	主な実施主体	・敦賀市
------	--	--------	------

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	第2産業団地への企業誘致	補助事業実施 →				
②	産業間の連携推進	事業実施 →				

E ホスピタリティあふれる敦賀人の育成

来訪者に敦賀の魅力を伝えるためには、市民一人ひとりが敦賀の魅力を再認識し、誇りをもって紹介できることが大切です。ボランティアガイドの方をはじめ、民間企業、NPO、大学生等の若者など多様な立場の市民が、スキルと心(=おもてなし意識)を磨くことで、来訪者の受入れ体制づくりを推進します。また、新たな「敦賀人」の受入れに向けて、移住・定住希望者のサポートを行います。

さらに、行政と民間が協働で新幹線開業に向けた取り組みを推進できるよう、官民連携による組織づくりを目指します。

重点プロジェクト

E-1 敦賀市民のおもてなし意識向上	
おもてなし力の強化	
取組概要	<p>市民ボランティアによる市民一人ひとりのおもてなしの推進や、観光事業者等へのおもてなし力向上に向けたセミナー、観光検定等の実施を通じて、ホスピタリティあふれる敦賀人の育成を行い、来訪者の満足度向上を目指す</p> <p>主な実施主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市 ・商工会議所、 ・市民団体 ・観光ボランティアガイド ・観光協会 など

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	観光事業者等へのおもてなし力向上に向けたセミナーや研修会の開催	セミナーの開催				
②	敦賀おもてなし隊推進事業	商店街、商工会議所との話し合い	新たなおもてなし事業の展開			
③	観光ボランティアガイドの活動の充実	事業実施				
④	敦賀の観光に関する講座の開催	講座の開催、観光つるが検定チラシ配布				
⑤	観光つるが検定の実施	検定の実施				

E-2

インバウンドへの対応

外国人旅行者へのおもてなしの向上

取組概要	外国人旅行者の増加が見込まれることから、インバウンド対策セミナーの開催や英会話ハンドブックの作成等により外国人旅行者に対するおもてなし力の向上を図る	主な実施主体	・商工会議所 ・観光協会
------	--	--------	-----------------

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	インバウンド対策セミナーの開催	セミナーの開催	→			
②	指差し会話シート作成・配布	会話シートの配布	→			
③	観光案内英会話への対応	ガイドハンドブックの構成等検証	概要の作成及び校正	完成及び配布開始	→	

E-3

民間と行政の連携体制強化

官民連携の体制づくり

取組概要	新幹線開業に向けて各種取組の連携や開業に向けたプロモーションの検討、推進を行うための官民連携体制の構築を行う	主な実施主体	・敦賀市 ・商工会議所 ・観光協会 など
------	--	--------	----------------------------

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	敦賀市観光推進ネットワークの推進	事業実施	→			
②	観光誘客対策	関係他団体との連携の強化	→			
③	協働推進組織の設立・推進	組織設立に向けた勉強会等の開催	組織の設立 開業イベントの検討等	取組方策の検討・見直し等	開業イベントの実施等	→

E-4 移住者の受入れ・支援

移住定住の促進に向けた情報提供

取組概要	空き家・空き地情報バンクの整備や移住定住を促進するための情報提供を行い、本市への定住促進を図る	主な実施主体	・敦賀市
------	---	--------	------

◆事業の取組スケジュール

	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	空き家・空き地情報バンクの促進	事業実施 				
②	移住定住促進HPの運営	HPの運営 				

E-5 誰もが楽しめる魅力的なイベントやまつりの開催

まちなかの賑わい創出

取組概要	商店街組合、市民、市民団体によるイベント等の開催により、多様な主体が積極的にまちづくりに参画し、中心市街地の賑わい創出を推進する	主な実施主体	・敦賀市 ・商工会議所 ・青年会議所 ・市民団体 ・民間企業 ・各商店街振興組合 など
------	--	--------	---

◆事業の取組スケジュール

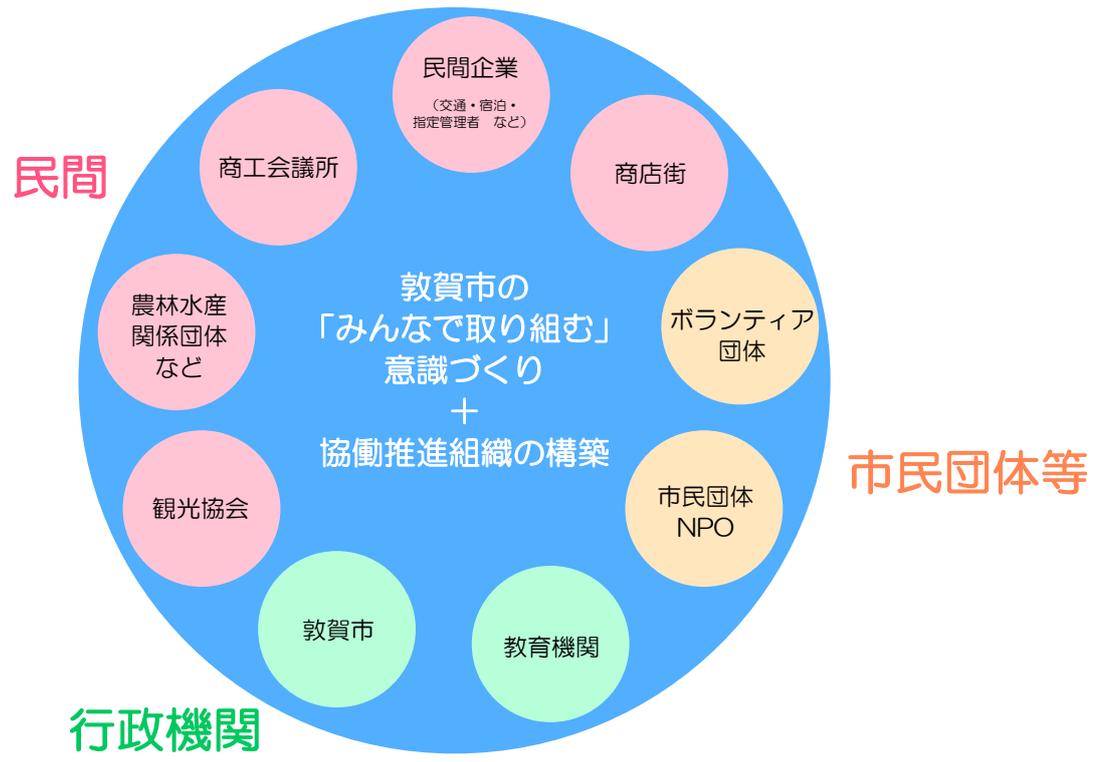
	事業	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (開業年度)	2023年度
①	中心市街地における地域活性化イベントの開催	「ミライエ」「つるが鉄道フェスティバル」「清明の朝市」「百縁商店街」等のイベントの実施 				
②	中心市街地賑わい街づくり支援事業	支援実施 				
③	つるが旨いもんバルの開催	「つるが旨いもんバル」の開催 				
④	まちゼミの開催	まちゼミの開催 				
⑤	友好市町と連携した賑わい創出イベントの開催	賑わい創出イベントの開催 				
⑥	国際交流イベントの開催	国際交流イベントの開催 				

5. 行動計画の推進

(1) 官民連携による推進体制

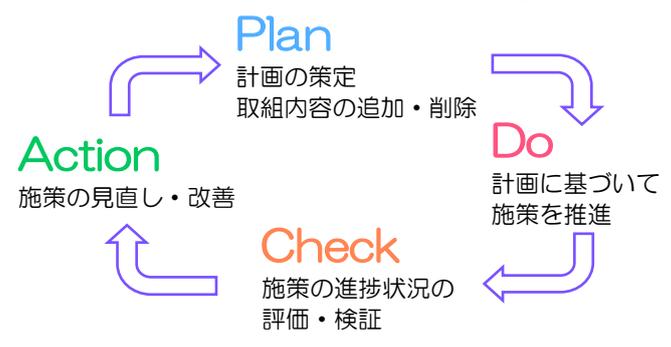
本計画の推進にあたり、行政、民間企業、ボランティア団体など様々な主体の連携が重要であり、本計画や推進すべき方向性を共有し、一丸となって行動する場作りが必要となります。

そのために協働推進のための組織を構築し、本計画の見直しをはじめ、開業に向けた具体的なプロモーションや開業イベントの検討など、開業に向けた取組を効果的に推進できるような体制づくりを目指します。



(2) 計画の見直し・改善

本市を取り巻く社会情勢は毎年変化するとともに、今後「敦賀市再興プラン」を始めとする上位計画の改訂も行われます。このため、できることから着実に一歩ずつ新幹線開業に向けて取り組むとともに、社会情勢の変化等を踏まえながら、毎年度、取組状況の評価・検証を行い、状況に応じて取組内容の追加や見直し、改善を行うことで、より実効性の高い計画にします。



北陸新幹線敦賀開業に向けた敦賀市行動計画

【骨子案】

2019年2月

敦賀市 産業経済部 新幹線まちづくり課

TEL 0770-22-8241 FAX 0770-22-8184

URL <http://www.city.tsuruga.lg.jp/index.html>